

『3グラムの記憶』

小倉 規彰

起

1019

7時を示すデジタル時計から大音量の電子音が鳴り響いた——
うつ伏せになって寝ていたベッドの主は反射的に手を伸ばして即座に時計の頭頂部のボタンを連打、デジタル時計は5秒を待たずしてその役目を終えた。

「なんかブーツとするような……寝足りなかったかな」

ベッドに座り込んで軽く体を伸ばすと、朝食の用意をしにキッチンに向かった。

朝食と言っても学生の一人暮らしだ、たいそうな物を作るわけではない。

冷蔵庫から6枚切りの食パンを取り出しトースターに入れタイマーのつまみを3分に合わせる。パンが焼けるまでにフライパンに3本ほどウインナーソーセージを放り込み破裂しないよう常に転がしながら中火で炒め、適当な焼き色が付いたら皿に移しトースターの上に置いて冷めないようにしておく。

再び冷蔵庫から牛乳パックとペットボトルを取り出す。ペットボトルをマグカップに

傾けると黒い液体が注がれ、かすかに香ばしい香りが漂う。注がれたコーヒーに対して1:4になるように牛乳を入れ箸で適当にかき混ぜる。

音がしてタイミングよくパンが焼きあがったことを知らせてくる。取り出して表面にマーガリンを塗り、プラスチックの筒から味付けのりを二枚出して上に乗せる。インターネットで見て半信半疑で始めてみたのだが意外や意外ハマってしまった。簡単でうまいのはさることながら、実家から送ってくるのりの消費にも役立つといいことづくめだ。

左手にマグカップと皿、箸を持ったまま部屋に移動すると、テーブルの上のリモコンを取りテレビを付け、食器を置くスペースを作るために邪魔になるものを適当にテーブルの端によける。

食器を置いて、パンを食べながらリモコンで番組表を呼び出し、お目当ての番組にチャンネルを合わせる。お目当てといっても何か特別な番組じゃない、いつもの朝と同じ早朝番組だ。

画面の中では最近人気だという豚カツ屋が紹介されている。昼頃の映像らしくスイーツ姿のサラリーマンが店内を埋め尽くしている。カメラに映る店長がこだわりなどを語り、それにレポーターの芸人がツッコミを入れつつ番組が進んでいく。

「あー、たまにはいいもの食いたいなあ」